

地域学部 地域学科 地域創造コース

募集人員(予定)
10人

2年 | 高信 彩也香 さん (たかのぶ さやか) [島根県立隠岐島前高等学校 出身]



鳥取の方言がカワイイ!

「だけえ(だから)」「～だでな(～だよね)」とか、地元出身の友達を使う鳥取弁が面白くて新鮮。私もマネして使っています。同じ県なのに東・中・西部で方言が違うのも興味深いですね。

鳥取のお気に入り

■ 鳥留学で知った地域の面白さをもっと学びたい!

神奈川県から島根県隠岐諸島にある高校へ“鳥留学”した私。地域活動が盛んな学校で、地域学の授業があったり島に暮らす方々と交流したり、様々な経験を重ねました。そんな中で私は「島は都会と違い、どの家族も何らかの形で別の家族とつながっている」と気付き、地域社会を構成する最小単位「家庭」に興味を抱くようになったんです。そこで、地域について多角的に学べる鳥大の地域政策学科を進学先を選択。高校の授業で地域を調査研究したこと、地域課題の解決策を考える「Dig」というコンテストに参加した経験等を生かし、AOで受験することにしました。

願書に書く志望理由・自己PRを考えると、一番苦労したのは「自分を振り返る」こと。「それがなければ面接で自分のことは語れない」と先生に言われ、人生グラフを書きながら自己分析。おかげで、これまでの出来事やその場面での気持ち、失敗や成長、将来の目標などが明確になり、自分にしか書けない言葉で表現することができるように。面接も「相手に自分のことを分かってもらうんだ」という気持ちで、より具体的に話すよう練習しました。

■ 2次科目は何度も練習し、心に余裕を持とう

2次選考対策は、課題論文・グループディスカッション・2次面接を毎日ローテーションで練習。スクーリングについても、ネットに上がっている大学講義を聴いてメモを取る練習をしました。高校は寮生活で、新聞を独り占めすることができなかったため、最新の地域問題、時事ネタは「Googleアラート」の機能で情報収集。事前に登録したキーワードにより最新ニュースが自動配信されるので、時間が省けるし、新聞よりも各地域のことが詳しく分かって便利です。

グループ討論では、脱線ぎみの意見が飛び出したとしても全否定は厳禁。本筋との関連を見つけ出し、次につながる展開に持っていくのが大事ですね。1人で突っ走らず、お互いの気持ちをくみながら進めていく心がけました。AO受験する同級生とそういう練習を繰り返していたのが役立ちました。AO入試にしっかり立ち向かうと、大学での学修に役立つ力が身に付きます。“全力”が一番ですよ!

平成29年度AO入試 第2次選考 <選抜のポイント、面接・論文等の出題例等>

平成29年度AO入試がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。

平成30年度AO入試が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

なお、AO入試の過去問題は、平日の9:00~17:00に、鳥取キャンパスは入試課、米子キャンパスは医学部学務課で閲覧することができます。

全体を通して
求める力

自らの地域の発展に貢献できるキーパーソンに成長するための、地域の諸問題への高い関心や行動力、あるいは問題解決に取り組むユニークな発想力とリーダーシップなどが求められます。

スクーリング	講師(1名)が「地域における若者の政治参画」についての講義(約75分)を行い、その後、受験者との質疑応答(約15分)を行いました。
課題論文	スクーリングの内容に関連した設問(2問)に90分で解答するものでした。設問の内容は、スクーリングの内容の一部を要約するもの(400字以内)と、身近な地域における政策課題を述べ、10代の有権者が選挙や住民投票を通じて、参加の実感を持ちながら、その政策課題に関わるために必要なことについて論述するものでした(600字以内)。
グループディスカッション	ワールドカフェ方式を採用し、受験者は5名ずつ4グループに分かれて1ラウンドを20分間とした討論を行い、メンバーを入れ替えながら4ラウンドの討論を繰り返して、議論を深めました。テーマはスクーリングの内容を踏まえたもので、ラウンド毎に変更しました。
個人面接	3名の面接官による、1人あたり25分の面接を行いました。